

中尾歌舞伎定期公演

中尾歌舞伎保存会が活動休止の発表をしてから一年。これまで多くの方から再開を望む声がかかれ、継続的な活動ができる方法について関係者で何度も検討してきました。前途はまだまだ多難ではありますが、新たな第一歩を踏み出すことになりました。再開する「中尾歌舞伎」を応援する気持ちで多くの方にご来場いただければ幸いです。

日時 平成30年 **4月29日** 祝日

場所

午後0時30分 開場
午後1時30分 開演

「中尾座」

(長谷伝統文化等保存伝習施設)

再開!

演目 御所桜堀川夜討 弁慶上使の段

【あらすじ】

源義経は、妻の卿の君(きょうのきみ)が平家一族、平時忠の娘であったため、平家を滅ぼした後も兄の頼朝から裏切り者の疑いをかけられている。忠誠を示すなら卿の君の首を討つよう鎌倉方に命ぜられ、家臣である弁慶は、首を討つため侍従太郎(じじゅうたろう)の屋敷にやって来た。卿の君は妊娠していたので、侍従太郎夫婦と相談の末、この屋敷に奉公している腰元の信夫(しのぶ)に身代わりに死んでくれと頼む。しかし、信夫の母親であるおわさは、18年前たつた一度だけ契った娘の父親に逢わせるまではたとえ主君の命でも承知できないという、いきなり弁慶が背後から信夫を刺し殺す。

驚くおわさの前に示された弁慶の赤い片袖こそ、当時の証として身に着けていたそろいの振袖であった。弁慶こそ、信夫の父親だったのだ。皮肉な運命に弁慶は、我が子と知らずに手打ちにした無念さで男泣きする。侍従太郎は信夫の首を落とすと、偽首とされぬよう自分の首もいっしょに差し出せと切腹する。

弁慶は二つの首を持って御所へ帰る。

入場無料

前座として長谷小学校4年生11人による
長谷に伝わる民話「孝行猿」の
演劇上演があります。(30分程度)

●公演当日、会場に「移動販売車」が来て、お弁当や飲み物(お酒・ビール・お茶)が購入できますのでご利用ください。

※全席自由席ですが、会場内が狭いため立ち見となる場合があります。
※駐車場は係員の指示に従い、中尾座前庭へご駐車ください。

お問い合わせ

伊那市中尾歌舞伎保存会事務局(長谷公民館内)
電話(0265)98-2009

